

## 第4回伊勢広域環境組合ごみ処理施設基本計画策定委員会 議事概要

【日時】令和2年9月1日（火）14：00～16：00

【場所】伊勢市役所東館5階 5-3,5-4会議室

【出席者】（敬称略）

<委員>（◎は委員長、○は副委員長）

- ◎深草 正博 知識経験を有するもの（皇學館大学）
- 加藤 忠哉 知識経験を有するもの（三重大学）
- 荒井 喜久雄 公共団体等の代表者（全国都市清掃会議）
- 奥野 長衛 地域住民（建設候補地自治会）
- 奥野 里路 地域住民（建設候補地自治会）
- 杉山 謙三 地域住民（伊勢市）
- 寺前 好美 地域住民（明和町）
- 藤川 和彦 地域住民（玉城町）
- 岡村 広彦 地域住民（度会町）
- 宮原 章吉 関係行政機関の代表者（三重県）
- 藤本 宏 関係行政機関の代表者（伊勢市）
- 出口 昌司 関係行政機関の代表者（伊勢市）
- 森本 真成 関係行政機関の代表者（伊勢市）
- 西尾 仁志 関係行政機関の代表者（明和町）
- 山口 成人 関係行政機関の代表者（玉城町）
- 森井 裕 関係行政機関の代表者（度会町）

<事務局>

伊勢広域環境組合

<コンサルタント>

八千代エンジニアリング株式会社

【配布資料】

- 資料1-1 エネルギー利用計画について【審議事項】
- 資料1-2 エネルギー利用事例
- 資料2 環境学習計画について【審議事項】
- 資料3 防災機能計画について【審議事項】
- 資料4-1 アンケート（技術提案書等）の提出依頼について
- 資料4-2 事業概要書【確認事項】
- 資料4-3 技術提案書等の作成要領書【確認事項】
- 資料4-4 様式集【確認事項】
- 参考資料1 第3回伊勢広域環境組合ごみ処理施設基本計画策定委員会 議事概要
- 参考資料2 ピット等容量について
- 参考資料3 低位発熱量の設定について

## 1 開会

- 傍聴席を一般20席、報道2席を事務局で用意し、一般5名の傍聴となった。

## 2 前回議事録の確認

- 事務局より参考資料1に基づき説明し、委員からの意見は特になし。

## 3 議事

### (1) エネルギー利用計画について

- 事務局より資料1に基づき説明し、委員からの意見は以下のとおり。

(委員) 白煙防止装置を設置しない理由は理解できた。しかし、今回の説明内容を周辺住民に理解していただけるかどうかが重要だと感じている。白煙は有害でない旨、周辺住民へ説明する機会を設けるなどして十分に対応してほしい。

(事務局) ご指摘のとおり住民の方々のご理解が必要であると考えており、小学校の見学会等でも白煙は有害でない旨を説明するなどしています。今後も同様に、住民説明会などの機会でご理解いただけるよう十分に説明して参りたいと思います。

(委員) 電気自動車への電力供給は、エネルギー利用の分類の中で場内供給、場外供給等において、どの位置づけとなるのか。

(事務局) 他自治体では場内に一般車が使用できる充電スタンドや、パッカー車用の充電器を設けている事例があることを確認しています。場内での電力供給という位置づけとなると考えますが、事業者選定時にはこれらの設備を設けるか否かを明確に規定することを考えています。

### (2) 環境学習計画について

- 事務局より資料2に基づき説明し、委員からの意見は以下のとおり。

(委員) 基本方針5、6に対する検討方針は、現在のリサイクルプラザで行っている活動を継続していくという理解でよいか。

(事務局) ご理解のとおりです。

(委員) 基本方針7の関連ですが、地域社会に貢献する施設を目指すということだが、民間企業などは環境報告等を毎年行っている。ある企業は、住民への環境報告等の一環として、周辺のショッピングセンターを活用して環境報告レポートを行う、あるいは、同企業の工場から見える白煙は水蒸気であること等についても説明する、といった活動を行っていた。こうした方法も、組合が今後、住民に説明を行っていく方法の一つとして参考にしてほしい。

(委員) 明和町でも、ぎゅーとらさんと一緒に環境啓発等を既に行っているので、活性化していきたいと考えている。

(事務局) リサイクルプラザで実施しているもったいないフェアなども同様の位置づけにあると考えています。ただ今ご説明いただいた内容も参考に検討を進めて参りたいと思います。

(委員) 近年取りざたされているマイクロプラスチック問題についても積極的に啓発を行っていく必要があると考えている。水産業が盛んな地域なので、投棄されたプラスチックごみが最終的にどこに行き着き、どのように環境に影響を与えるのか学習する機会を設けなければならない。

(委員) 私の地元ではごみ分別ルールが浸透していなかったこともあり、チラシを作成して説明した経験がある。各市町が住民の意識を変えるように啓発することも重要であると考えている。

(委員長) 子供達の環境学習活動が将来の地域のためとなると考えているので、環境学習の方法については積極的に検討してほしい。また、3Rは大量生産、大量消費、大量廃棄を前提としたものであると考えている。本来、ごみゼロを目指すことが重要であるので、3Rにリストラビューション(再分配)、リバリュー(価値の再検討)、リストラクチャー(構造の再構築)を加えた6Rという考え方が重要である。将来的にはごみ量がゼロに近づくことが可能な様に各市町ともに十分に検討を重ねてほしい。

### (3) 施設防災計画について【審議事項】

- 事務局より資料3に基づき説明した。主な意見等は以下のとおり。

(委員) 近年想定外の地震や大雨も増えているが、想定浸水深プラス0.5mの地盤高の設定で十分だと考えているのか。

(事務局) 想定浸水深が0.5mという中で、さらに高い位置に設定するという考えで想定浸水深プラス0.5m以上を計画GLとしています。その上で、重要な設備は2階に設置するなど、その他の対策も実施することにより想定外の地震や浸水被害にも対応して参りたいと思います。

(委員) 「消費電力をまかなえる能力の大型非常用発電設備」と記載があるが、「消費電力」より「必要電力分」という表現の方が、災害時の自立稼働に必要な分の発電設備を設けるというイメージが付きやすいと思うので、表現方法を検討していただきたい。

(事務局) ご指摘を踏まえて表現を訂正いたします。

(委員) 災害時は井水を利用することだが、どの程度の井戸を想定しているのか。また、水深は把握しているのか。

(事務局) 既存施設でも2カ所井戸を設けており、同程度の規模になると考えています。既存の井戸は深さが7m程度であり、平均で水深が2～3mです。

### (4) アンケート(技術提案書等)の提出依頼について【審議事項】

- 事務局より資料4-1～4-3に基づき説明した。主な意見等は以下のとおり。

(委員) 施設の利用期間としては40年間を想定している中で、最初の20年間の運営期間を発注するため、例えば最後の1年間は終了前の検証期間として、十分に施設の運営、維持管理状況を確認するべきであるとする。

(事務局) 運営期間20年間の終了の数年前から、施設の運営、維持管理状況を確認し、その後の施設利用に支障がないように計画をします。

(委員) 今後は一定程度の大きさの木材も処理できるような設備の設置を検討していただきたい。

(事務局) 木材の処理能力についても、住民が困らないよう設備の設置を今後検討していきます。

(委員) 大型動物や木材の処理方法も様々であると思うが、メーカーアンケートの結果どのような基礎資料が提示されることを想定しているのか。

(事務局) メーカー自らが推奨する処理方式のエネルギー回収施設について、技術提案を行うこととなっているが、処理方式によって前処理をすることなく受け入れることができる木材や動物大きさ、年間処理頭数等も異なってくる、あるいは、必要な前処理の方法も異なってくると考える。それぞれの処理方式の特徴に対応した望ましい前処理方法及び設備仕様、それに伴う概算導入費用、年間運営経費といった資料を求めています。

(委員) 7月21日に開かれた国の有識者会議でプラスチック製容器包装のほか、歯ブラシや文房具などのプラスチック製品もプラスチック資源として分別一括回収する制度を将来的に導入する方針を示している。この動きによっては、本計画におけるマテリアルリサイクル推進施設の処理フロー等にも影響が出てくるものと考ええる。国におけるプラスチック資源のリサイクルに係る動向について把握しておいていただきたい。

(事務局) 国の動向を確認し、必要に応じて計画に反映していきます。

(委員) 既存施設は交通の便が悪く、周辺住民が訪れにくいイメージがある。例えば温水プールや煙突の展望台等を整備するなど、人がやってくるような施設を目指してほしい。

(事務局) エネルギーの利用方法や環境学習の機能を計画する中でも、様々な手段があると考えていますが、地域住民の方が訪れやすい施設となるように検討を進めて参りたいと思います。

#### 4 閉会